



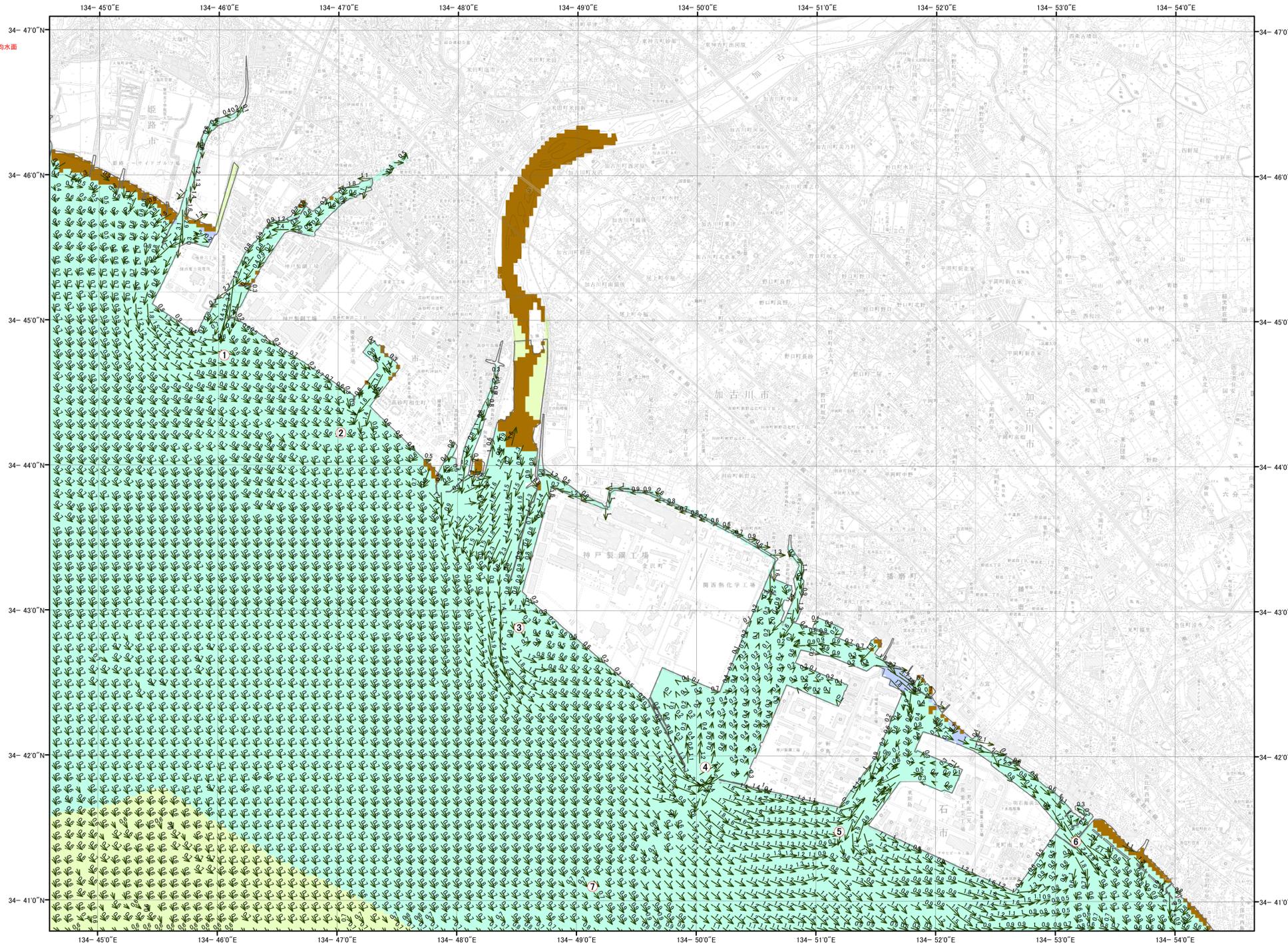
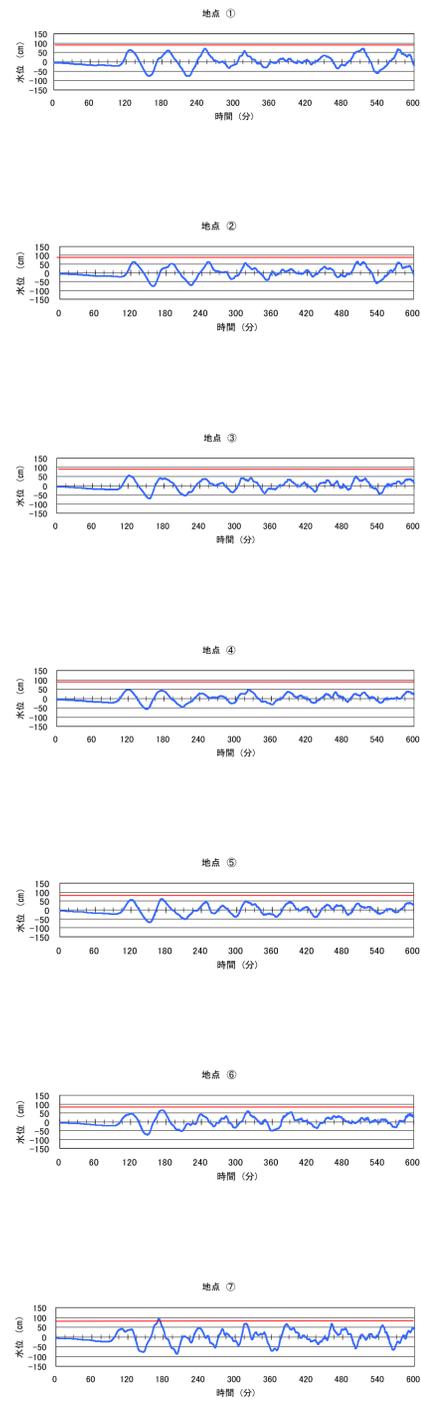
東播磨港 津波防災情報図(引潮図)

計算条件：最低水面
隆起量：平均 -6cm(-6cm ~ -5cm)

・津波は、震源の位置、規模、細かな地形の影響などにより、試算した津波と異なることがあり、過去には、今回の津波の試算より大きな津波が来たことがある。



経時変化図：図上の位置における津波の挙動を時系列で示す。



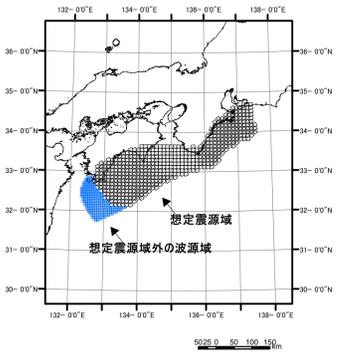
1:30,000

座標系：メルカトル図法
測地系：世界測地系(WGS-84)

- 凡例
- 露出域
 - 経時変化図出力点
 - 最大水位低下
 - 100~最大106cm
 - 50~100cm
 - 50cm未満
 - 引潮時最大流 [knot]
 - 3 knot
 - 2 knot
 - 1 knot

・海岸構造物は、地震・津波の影響を受けないものとして計算している。

想定震源域と波源域の位置



マクロ的に見たパラメータ	南海地震	東南海地震
断層面積 S (km ²)	約 36,500	約 14,500
地震モーメント Mo (N·m)	8.34 X 10 ²¹	2.15 X 10 ²¹
平均すべり量 D (m)	5.70	3.63
モーメントマグニチュード Mw	8.55	8.15

・本図は、中央防災会議「東南海・南海地震等に関する専門調査会」で公表された断層モデル及び断層パラメータを使用した。

・試算には、海上保安庁海洋情報部のJ-EGG500、J-BIRD、沿岸の海の基本図地形データ及び海図を作成する際の基礎データを使用した。
 ・この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。
 (承認番号 平17総復、第760号)
 ・この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図50mメッシュ(標高)を使用したものである。
 (承認番号 平17総使、第569号)

